

# 大学生が主体!古着イベント ファストファッションの隆盛の中でのリサイクル実践

## 渡部 なつみ(国際関係学科・学生)



はじめに

筆者はファッション業界が引き起こす社会問題を研究しており、これまで特にバングラデシュの縫製産業の労働問題に着目してきた。近年、日本も含め、世界では毎年多くのファッションショーが開かれ、メディアでもファッションに関する情報が大量に溢れている。しかしそのきらびやかな世界の中で深刻な問題が起こっていることを、ご存じだろうか。本レポートではファッション業界が引き起こす問題について、その原因や現状を述べる。また、これらの問題を解決する一つの手段としての「古着」の可能性について、神戸の大学生の取り組みを上げつつ論じさせていただく。

### 服の墓場

写真1を参照していただきたい。砂漠にゴミのようなものが積みあがっているのが見て取れる。ここは南米チリの北部に広がるアタカマ砂漠であり、「衣類の墓場」とも呼ばれる。この捨てられた衣類は、写真に写るこの場所だけでも10万トンに上るとみられている(イメージしにくいので、比較のために補足しておく。豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号が11.5万トンである)。



写真1:アタカマ砂漠の「衣類の墓場」(NHK 2022)

これらの捨てられた衣類の多くには、ポリエステル、ナイロン、アクリルなど、私たちにもなじみの深い化学繊維が使われている。その結果土壌汚染が問題になっており、火災が発生した際には有毒ガスが発生し、大気汚染を引き起こしている。しかしなぜ砂漠にこれほどまでの服が集まるようになったのだろうか。

### 売れ残りが墓場を作る

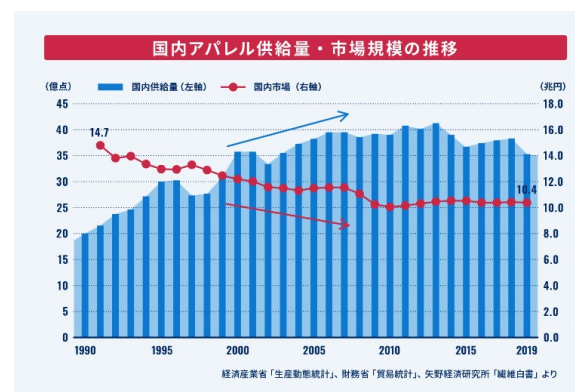
アタカマ砂漠の近くにある港では、衣料品の関税が政府によって免除されている。そのため、この砂漠の近くでは古着販

売のビジネスが盛んであり古着が世界中から集まってくるのだ。しかし、なんとその約6割もが売れ残ってしまう。

さて、この売れ残りをどう処分すればよいかという問題が次に出てくる。化学繊維は燃やすと有毒ガスを排出するため、これらの衣服はプラスチック対応の焼却炉でしか焼却が許されていない。また分解されないため、埋め立ても禁じられている。このような背景があり、一部の業者が売れ残った衣類を砂漠に不法投棄し、このような服の墓場と呼ばれるような場所が出来上がった。世界中から集まる古着を処分しきれない状況や、自国の繊維産業を保護するために、先進国からの古着輸入を禁止しようとする国も出てきてはいるが、多くの国では大国の圧力により、この政策の実施は阻止される。チリもそうした例に当たる。

### 衣服の大量生産、大量消費

今日世界では、先進国や途上国に関係なく、古着が処分しきれない状況にあることが分かった。この状況の背景にあるのが、ファストファッションの台頭である。これは流行を取り入れた衣類を大量に生産し、低価格で販売する衣料販売の業態を表す用語である。例として、ユニクロやジーユーなどを率いるファーストリテイリング、H&M、GAPなどが挙げられる。そして近年は中国発祥のブランド、SHEINがその安さと、豊富な品揃えで急成長を遂げている。こうしたなかでの問題は、グラフ1に見るように、市場規模はここ20年間低迷しているにも関わらず、それに反比例して衣類の供給が増加して、余剰が生じているという状況である。



グラフ1:日本における衣類の供給と需要(環境省)

## ファッション産業が引き起こす問題

ここで少しファストファッションに関する問題について掘り下げておきたい。環境問題だけでも、CO2 の排出、水の大量消費や汚染、エネルギーの大量消費、土壌汚染、大気汚染、マイクロプラスチックによる海洋汚染など多岐にわたる。

また服を製造する過程における労働問題も、大きな問題である。例として 2013 年バングラデシュで縫製工場が入っているビルの崩壊事故が起こり、4000 人以上の被害者が出た。この事故は建物が建築基準法を満たしていなかったことが主な原因で起こった。この事故により、危険な環境で労働者が働かされていること、賃金の未払い、低賃金などの問題も明らかになり、非難を受けた世界的なブランドは対応に追われることとなった。

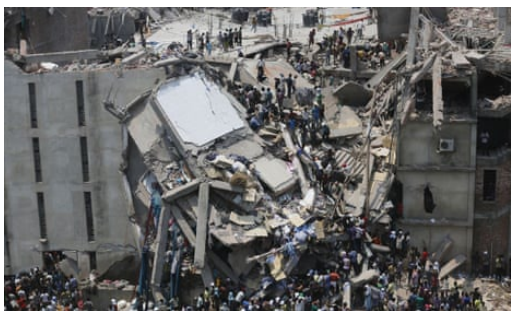


写真 2: 崩壊したラナプラザビル(The Guardian 2015)

先進国のファストファッションのブランドの多くが、バングラデシュなどのアジアの途上国で縫製を行っている。基本的に国家間や企業間は持ちつ持たれつの関係で成り立っており、ある部分において上下関係が出来るのは仕方ないことと言えるかもしれない。しかし、「搾取」は起こってはならないだろう。また、人の苦しみで出来た服は着たくないという倫理的な面や、服の生産でこれほどの資源が浪費、汚染されているという科学的な面からも、ファッション産業は変革が求められると筆者は考えている。

## 古着の可能性

さて、このようなファッションについての社会問題を解決する一つ的手段として注目するのが古着である。例えば、今まで新品の服しか買ってこなかった人が新たに古着を着用すると、ここで紹介してきた問題の多くを緩和・回避することが可能である。またファストファッションを初めとした、新品の安い服の購買を減らしていくことで、服の墓場に行きつく服を減らすことが出来るだろう。さらに消費者がこのような動きを取ることで、企業はこれまでの服作りのあり方を変えていかなければならなくなると思われる。

古着に関連した活動として、2023 年 8 月に神戸の大学生が主体となって実施したイベントを紹介したい。このイベントでは服好きな学生が自ら買い付けした古着の販売を行っていた。また会場では DJ ブースや飲食、焼き物の販売などもなされてお

り、大学生を中心に活気づいていた。ちなみに彼らはSDGs の波及のためではなく、単に「古着好きだから自分たちでも売ろうぜ」という心意気でこのイベントを開いている。意識はしていないが、結果的に社会問題の解決に繋がっているというところが何とも粋である。



写真 3: 古着イベントで服を選ぶ人たち(筆者撮影)

かくいう私も古着が好きで、神戸の古着屋さんを紹介するインスタグラムアカウント kobestalgia を運営している。古着好きも、社会問題に興味がある方も、気軽に活用して頂けると大変うれしい。

## おわりに

このレポートではファッション業界が起す問題、そして最後に古着の可能性について述べていただいた。これからこの問題についてより多くのメディアが報道し(メディアとも密接に関連した業界なので中々難しい面もあるだろうが)、多くの人が知っていくこと、ファストファッションという企業体系を変えていくこと、そして古着の更なる活用などが求められるだろう。

## 主要な参照・参考文献

環境省「サステナブルファッション」, 2023.11.03 取得

[https://www.env.go.jp/policy/sustainable\\_fashion/index.html](https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/index.html)

NHK (2022) 「衣類の墓場 着られなくなった服の末路」, 2023.11.03 取得

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20220218/k10013486591000.html>

The Guardian (2015) G7 leaders agree on new insurance fund after Rana Plaza disaster, 2023.11.03 取得

<https://www.theguardian.com/world/2015/jun/08/g7-insurance-fund-rana-plaza-disaster>

The Guardian (2022) Shein and the rise of ultra-fast fashion, 2023.11.03 取得

<https://www.theguardian.com/news/audio/2022/apr/25/shein-rise-ultra-fast-fashion-today-in-focus>